



2023 年度

事業報告書

学校法人 安田学園

目次

法人の概要	3
建学の精神	3
設置する学校	4
所在地	5
沿革	5
学校組織図	7
事務組織図	8
設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数	9
役員等の概要	10
事業の概要	13
安田女子大学・安田女子短期大学	13
安田女子高等学校・安田女子中学校	20
安田小学校	24
安田幼稚園	28
安田幼稚園安東園舎	32
財務の概要	36
資金収支計算書の推移	36
事業活動収支計算書の推移	37
貸借対照表の推移	38
貸借対照表関係比率の推移	39
事業活動収支計算書関係比率の推移	39
在学生数・教職員数の推移	39
財務の概要	40

法人の概要



建学の精神

学校法人安田学園は、「女子に教育は無用」とする風潮が強かった大正時代に、自ら女子教育の重要性と必要性を痛感し、「品格と教養を兼ね備えた女性を育てたい」と願った初代学園長安田リヨウにより開校されました。

建学の精神「優しく剛く」（やさしくつよく）は、「人間としての柔しさや徳性を身につけた人格を形成し、人間として剛い意志をもって社会に貢献することのできる、心身ともに健全な教養ある人間を育成する」ことをめざした安田リヨウの信念です。学園はこの創立以来の理念・教育方針を、世の中の変動に流されることなく長年守り続けてきました。

創立から 109 年、学園は数多の苦難と社会の変化を乗り越え、幼稚園から大学院までを設置する総合学園に発展しました。現在では「幼児教育から最高水準の教育を一貫して行える子女教育の総合学園」として、地域社会から高い評価を得るまでになっています。

学校法人安田学園は、これからもしっかりと堅実に、優しく剛い人材を社会に送り出してまいります。

設置する学校

学校名	学部・学科・専攻・課程	キャンパス
安田女子大学	大学院 文学研究科 博士前期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 教育学・心理学コース 臨床心理学コース 博士後期課程 日本語学日本文学専攻 英語学英米文学専攻 教育学専攻 家政学研究科 修士課程 健康生活学専攻 薬学研究科 博士課程 薬学専攻 看護学研究科 博士前期課程 看護学専攻 博士後期課程 看護学専攻	安東
	文学部 日本文学科 書道学科 英語英米文学科 教育学部 児童教育学科 心理学部 現代心理学科 ビジネス心理学科 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 国際観光ビジネス学科 公共経営学科 家政学部 生活デザイン学科 管理栄養学科 造形デザイン学科 薬学部 薬学科 看護学部 看護学科	
安田女子短期大学	保育科	白島
安田女子高等学校	全日制課程 普通科	
安田女子中学校		
安田小学校		
安田幼稚園		
安田幼稚園安東園舎		安東

所在地

安東キャンパス

〒731-0153 広島市安佐南区安東 6 丁目 13 番 1 号

白島キャンパス

〒730-0001 広島市中区白島北町 1 番 41 号

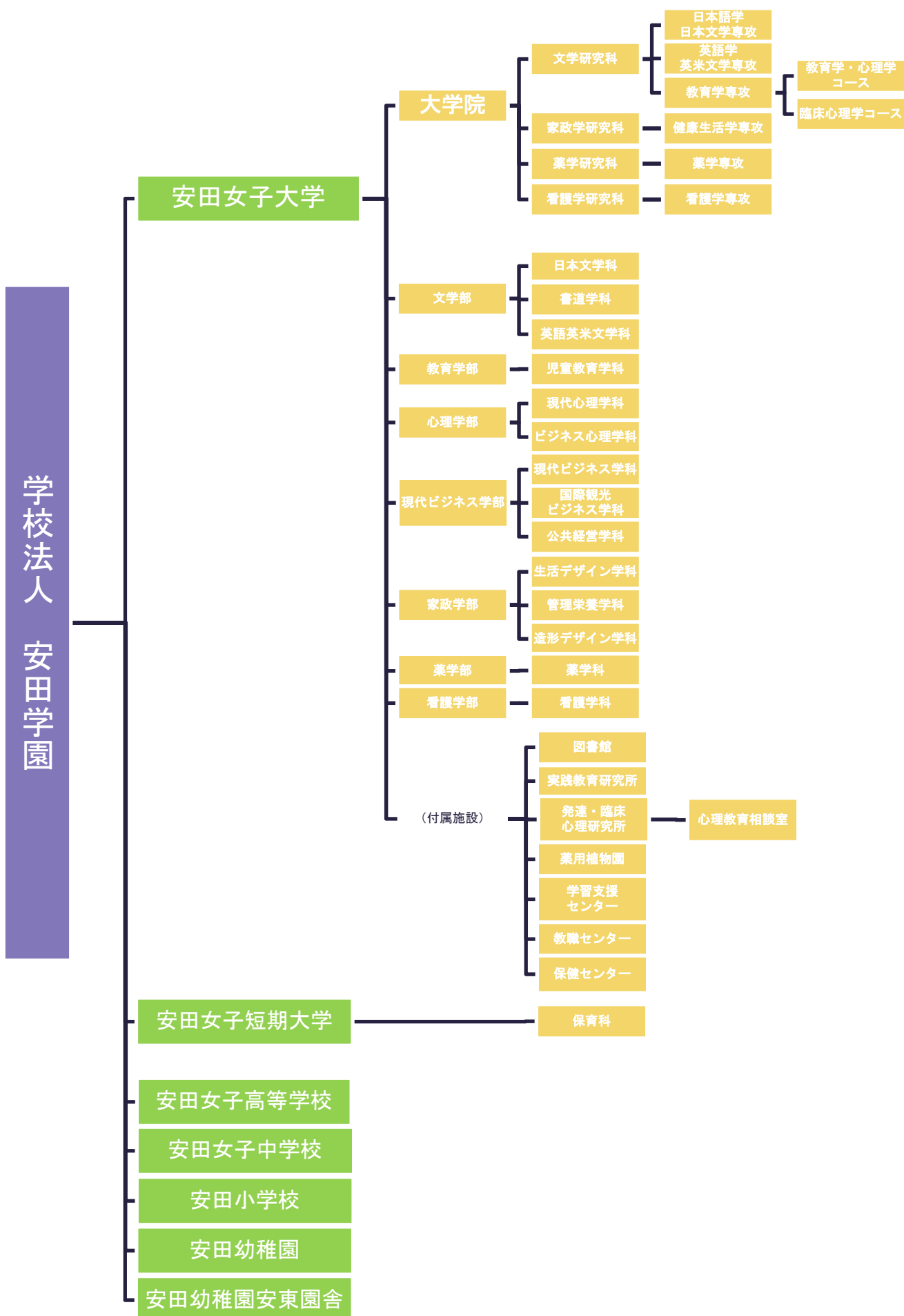
〒730-0002 広島市中区白島中町 2 番 25 号

沿革

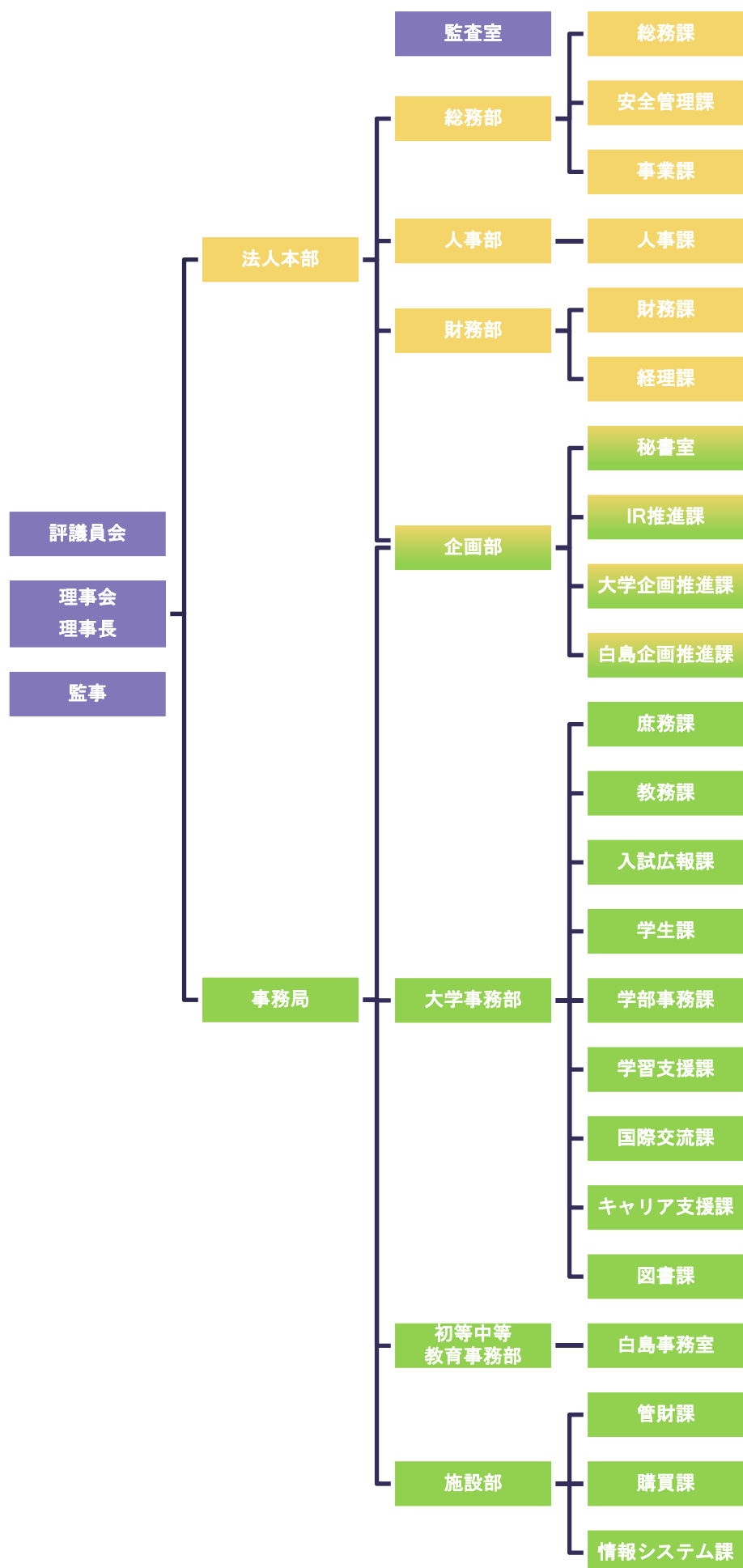
1915 年	1 月 4 月	広島技芸女学校設立の認可を広島県知事より受ける 各種学校令による広島技芸女学校開校（広島市中島本町）
1917 年	10 月	校地を広島市基町（現西白島町）に移す
1918 年	4 月	広島技芸女学校を安田技芸女学校と改称 実業学校令による広島技芸女学校開校
1920 年	4 月	安田技芸女学校は旧名の広島技芸女学校に復称 広島技芸女学校を高等女学校令による広島実科高等女学校に昇格
1922 年	4 月	広島実科高等女学校を改組して安田高等女学校を開校
1927 年	8 月	広島技芸女学校を広島高等家政女学校と改称（1945 年 3 月まで）
1928 年	8 月	安田高等女学校を財団法人安田高等女学校に改組
1930 年	5 月	広島女子教員養成所開所
1944 年	3 月 5 月	広島女子教員養成所廃止 安田高等女学校内に保育所併設（1945 年 3 月まで）
1945 年	8 月 12 月	原子爆弾のため職員 13 名、生徒 315 名死亡 校舎全壊、終戦 校地に旧工兵隊跡地使用の内諾を得、翌年 1 月本格的復興工事開始
1946 年	4 月	安田高等女学校 5 年制となる
1947 年	4 月	学制改革により安田女子中学校を開校 広島 Y・D・M カレッジ開校
1948 年	5 月	学制改革により安田高等女学校を廃止し、安田女子高等学校を開校
1951 年	3 月 4 月	学校法人安田学園へ組織を変更 広島県の委嘱をうけ広島県保育専門学校を開校（1953 年 3 月まで）
1953 年	4 月 6 月	安田学園幼稚園教員養成所を設置 安田保育園（1952 年 5 月開園）を廃止し、安田幼稚園を開園
1955 年	4 月	安田女子短期大学保育科開学
1956 年	3 月 4 月	安田学園幼稚園教員養成所廃止 安田小学校開校 安田幼稚園を安田女子短期大学付属幼稚園と改称
1961 年	4 月	短期大学に家政科増設
1965 年	3 月	広島 Y・D・M カレッジ廃止
1966 年	4 月	安田女子大学文学部日本文学科、英米文学科が安東校地に開学
1967 年	9 月	短期大学を白島校地より安東校地に移転
1975 年	4 月	大学文学部に児童教育学科増設
1981 年	4 月	安田女子大学付属幼稚園を安東校地に開園

1984 年	4 月	大学文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
1988 年	4 月	短期大学に秘書科増設
1991 年	4 月	短期大学家政科を生活科学科に名称変更
1994 年	4 月	大学に大学院文学研究科修士課程日本語学日本文学専攻、英語学英米文学専攻、教育学専攻設置
1996 年	4 月	大学院文学研究科に博士後期課程を設置
1998 年	4 月	大学文学部に人間科学科を増設
2002 年	4 月	大学文学部日本文学科を日本文学専攻、書道文化専攻の 2 専攻に分割
2003 年	4 月	大学に現代ビジネス学部現代ビジネス学科を増設
2004 年	4 月	大学に家政学部生活デザイン学科、管理栄養学科を増設 大学文学部人間科学科を心理学科に改組、人間科学科は学生募集停止 短期大学生生活科学科は学生募集停止
2005 年	3 月	短期大学生生活科学科を廃止
2007 年	4 月 9 月	大学に薬学部薬学科（6 年制）を増設 大学文学部人間科学科を廃止
2011 年	4 月	大学文学部日本文学科日本文学専攻を日本文学科に改組、日本文学科 日本文学専攻は学生募集停止 大学文学部日本文学科書道文化専攻を書道学科に改組、日本文学科書 道文化専攻は学生募集停止
2012 年	4 月	大学文学部児童教育学科を教育学部児童教育学科に改組、文学部児童 教育学科は学生募集停止 大学文学部心理学科を心理学部心理学科に改組、文学部心理学科は学 生募集停止
2013 年	4 月	大学院に家政学研究科修士課程健康生活学専攻を増設 大学院に薬学研究科博士課程薬学専攻を増設
2014 年	4 月	大学に看護学部看護学科を増設
2015 年	3 月 4 月	大学文学部児童教育学科を廃止 大学に現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科を増設 短期大学秘書科は学生募集停止
2016 年	3 月 4 月	短期大学秘書科を廃止 大学に家政学部造形デザイン学科を増設
2017 年	9 月	大学文学部心理学科を廃止
2018 年	4 月	大学心理学部心理学科を現代心理学科に名称変更 大学に心理学部ビジネス心理学科を増設 大学院に看護学研究科博士前期課程看護学専攻を増設 大学院に看護学研究科博士後期課程看護学専攻を増設
2020 年	4 月	安田女子短期大学附属幼稚園を安田幼稚園に改称 安田女子大学附属幼稚園を安田幼稚園安東園舎に改称 大学に現代ビジネス学部公共経営学科を増設

学校組織図



事務組織図



設置する学校の入学定員、編入学定員、収容定員、在学生数

2023 年 5 月現在

(単位：名)

学校	入学定員	編入学定員	収容定員	在学生数
安田女子大学				
大学院				
文学研究科				
博士前期課程	30	—	60	25
博士後期課程	9	—	27	2
家政学研究科				
修士課程	3	—	6	1
薬学研究科				
博士課程	2	—	8	1
看護学研究科				
博士前期課程	10	—	20	4
博士後期課程	3	—	9	2
大学院計	57	—	130	35
文学部				
日本文学科	90	1	362	358
書道学科	30	1	122	111
英語英米文学科	110	2	444	324
文学部計	230	4	928	793
教育学部				
児童教育学科	150	3	606	556
教育学部計	150	3	606	556
心理学部				
心理学科	—	—	—	1
現代心理学科	90	1	302	328
ビジネス心理学科	60	1	242	231
心理学部計	150	2	544	560
現代ビジネス学部				
現代ビジネス学科	90	1	362	371
国際観光ビジネス学科	90	1	362	347
公共経営学科	60	1	242	183
現代ビジネス学部計	240	3	966	901
家政学部				
生活デザイン学科	160	2	584	613
管理栄養学科	120	—	480	462
造形デザイン学科	75	—	310	303
家政学部計	355	2	1,374	1,378
薬学部				
薬学科	100	4	648	589
薬学部計	100	4	648	589
看護学部				
看護学科	120	—	480	515
看護学部計	120	—	480	515
学部計	1,345	18	5,546	5,292
大学計	1,402	18	5,676	5,327
短期大学				
保育科	150	—	300	240
短期大学計	150	—	300	240
高等学校				
全日制課程 普通科	270	—	810	751
中学校	250	—	750	510
小学校	105	—	505	514
幼稚園	70	—	210	210
幼稚園安東園舎	70	—	210	206
学園合計			8,461	7,758

役員等の概要

(1) 役員

理事 9 名（理事長含む）、監事 2 名

2024 年 3 月末時点

役員名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤	担当する職務内容や期待する役割等
理事長	安田 馨	2023.11.8	常勤	学校法人安田学園 理事長
専務理事	宝嘉 正博	2022.5.25		学校法人安田学園 法人本部本部長
常務理事	栗栖 孝明	2023.11.11		安田女子大学・短期大学学長補佐 事務局長
理事	瀬山 敏雄	2022.10.5		安田女子大学・短期大学 学長
	川本 有美	2019.4.1		安田女子中学高等学校 校長
	世羅田 慎治	2022.10.5		安田小学校 校長
	安田 馨	2022.10.5		学校法人安田学園 理事長
	山野 瑞枝	2022.5.25	非常勤	卒業生との連携
	山代 猛博	2023.11.15		外部情報の提供
監事	大方 幸一郎	2022.5.25		外部情報の提供
	古賀 康弘	2022.5.25		業務、財産及び理事の業務執行の監査
	武井 康年	2022.10.14		業務、財産及び理事の業務執行の監査

(2) 評議員 25 名

2024 年 3 月末時点

氏名	就任年月日	常勤・非常勤	学内での役職
安田 馨	2022.7.29	常勤	学校法人安田学園 理事長
瀬山 敏雄	2022.7.29		安田女子大学・短期大学 学長
栗栖 孝明	2022.7.29		安田女子大学・短期大学 学長補佐 事務局長
赤木 玲子	2023.4.1		安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
川本 有美	2022.7.29		安田女子中学高等学校 校長
世羅田 慎治	2022.7.29		安田小学校 校長
山本 勝也	2022.7.29		安田幼稚園 園長
石田 泰隆	2022.7.29		安田女子中学高等学校 教諭
川畑 誠	2022.7.29		学校法人安田学園 法人本部本部長補佐 総務部部長
小川 圭司	2022.7.29		安田女子大学・短期大学 事務局次長
佐藤 聡	2022.7.29		学校法人安田学園 法人本部財務部部長
谷 俊之	2022.7.29		学校法人安田学園 初等中等教育事務部部長
宝嘉 正博	2022.7.29		学校法人安田学園 法人本部本部長
三上 留美	2022.7.29		安田幼稚園安東園舎 園長
池田 智子	2022.7.29		安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
高口 圭轉	2022.7.29		安田女子大学・短期大学 学長補佐 大学教授
富永 一登	2023.4.1		安田女子大学・短期大学 大学教授 学部長 大学教授
瀬山 朋	2022.10.5		学校法人安田学園 法人本部総務部安全管理課
山野 瑞枝	2022.7.29	非常勤	—
鈴木 育江	2022.7.29		—
八反田 三千子	2022.7.29		—
本多 立憲	2022.7.29		—
藤田 香奈美	2022.10.5		—
山代 猛博	2022.7.29		—
大方 幸一郎	2022.7.29		—

(3) 責任限定契約及び役員賠償責任保険契約の状況

① 責任限定契約

私立学校法に従い、2020年10月6日に責任限定契約を締結しました。

A) 対象役員

非業務執行理事（山野瑞枝、山代猛博、大方幸一郎）、監事（古賀康弘、武井康年）

B) 契約内容の概要

非業務執行理事及び監事が任務を怠ったことによって生じた損害について、学園に対し賠償する責任は、その職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律で定める額（以下、「最低責任限度額」という。）を上限に学園があらかじめ定めた額と、最低責任限度額とのいずれか高い額を責任限度額とします。

C) 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

役員がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときに限る旨を定めています。

② 役員賠償責任保険制度

私立学校法に従い、理事会決議により2020年4月1日から私大協役員賠償責任保険に加入しています。

A) 団体契約者

日本私立大学協会

B) 被保険者

記名法人… 学校法人安田学園

個人被保険者… 理事長、理事、監事、および評議員

C) 補償内容

a. 役員（個人被保険者）に関する補償

法律上の損害賠償金、争訟費用等

b. 記名法人に関する補償

法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

D) 支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

E) 保険期間中総支払限度額

5億円

(4) 教職員

2023 年 5 月 1 日時点

区分	教員	事務職員	非常勤教員	兼務職員
大学	222	118	197	58
短期大学	12	4	8	4
高等学校	52	11	6	13
中学校	36	10	6	6
小学校	29	4	5	9
幼稚園	14	2	0	13
幼稚園安東園舎	12	2	0	12
その他	0	1	0	2
学園合計	377	152	222	117

事業の概要

当年度の主な事業

安田女子大学・安田女子短期大学



① 中期計画の進捗・達成状況

- A. 3つのポリシーは公式ホームページで公表し、学生、教職員及び地域社会に周知しています。また、教育の一層の充実を図ること及び普遍（不変）な事項と変化する事項への対応を目的に、大学院の3つのポリシーの改定を行いました。
- B. 自己点検・評価は本学の責任において恒常的に行い、質保証に努めることを目的とし、自己点検・評価委員会にて3つのポリシーに沿った適正な運用状況を検証しました。その後、FD委員会で報告し、3つのポリシーに沿った人材養成、教育の実施、入学生の確保がされていることを点検しました。
- C. 大学・大学院は、公益財団法人 日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価を受審し、当機構が定める評価基準に適合していると認定されました。優れた点として、学生の健康で快適な生活支援、本学独自の「まほろば教養ゼミ」の運営、海外研修プログラムの体系的な整備・実施、「学科FD通信」の発行・共有等の取り組みが特に評価されました。
- D. 自然の道理を探究する「理学的視点」と、その知識をもとに独創的に応用する「工学的視点」を身につけ、急速な技術革新、自然と社会の共生、持続可能な社会の実現など、現代社会が抱える複雑な課題に自ら対応策を模索する人材を養成することを目的として日本初の女子大学としての理工学部（生物科学科、情報科学科、建築学科）の設置認可申請を行いました。
この理工学部設置計画中（4月）に、文部科学省がデジタル・グリーン等の成長分野の学部設置等に必要な資金に充てるための助成を目的とした「大学・高専機能強化支援事業（成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金）」を創設し、公募を実施しました。本学の理工学部設置計画も5月にこの支援事業に申請し、7月に選定連絡、8月に18億7千万円の交付内定通知を受けました。
- E. 教育学部児童教育学科・短期大学保育科で行ってきた幼稚園教諭、保育士養成を統合し、幼児教育・保育分野において未来をけん引する保育者等の専門的職業人を養成すること

を目的として幼児教育学科の届出の準備を行いました。当該設置届出に伴い、「幼稚園教諭一種免許状」の教職課程認定申請と「指定保育士養成施設」の指定を受けるための計画書を各関係省庁に提出しました。さらに、高等教育機関としてより社会に貢献すべく、保育科の教育理念を幼児教育学科へと継承し、更なる発展を目指すため、2025年度からの保育科の学生募集停止並びに教育学部の入学定員増を決定しました。

- F. 公式ホームページでの3つのポリシーの公表に加え、求める人材像を『入学試験ガイド』『入学試験要項』に記載し、入学前段階から理解を促しました。更に公式ホームページにおいて、受験者・志願者の動向を踏まえた記事の更新により、閲覧者・閲覧数ともに増加させました。
- G. 対面を基本とする学生募集活動を積極的に展開した一方で、遠方の高校における出張講義や高校内説明会においては、オンライン方式も活用しました。主な学生募集活動は、春のキャンパスフェア（4月）、高校3年生・保護者対象大学説明会（6月）、オープンキャンパス（7・8月）、高校訪問（通年）、キャンパス見学（通年）、出張講義（通年）、高校内説明会（通年）等です。入学試験では、総合型選抜などの年内入学試験制度を中心に、近年の志願者動向を踏まえて見直しを行いました。昨年までは総合型選抜（専願・併願）は11月のみの実施でしたが、12月にも実施することで志願者の受験機会の拡大を図りました。また、11月実施の総合型選抜（専願）についても、試験内容を見直すことで学外試験会場を中四国・九州（沖縄含む）に拡大し、本学を第一志望とする志願者の利便性を図るとともに学生募集エリアの広域化を図っています。入学者選抜においては、厳正な実施と定員管理を行いました。
- H. 電子データで効率的に出席状況を把握し、授業における出席確認の時間削減を図りました。更に複数の評価方法を併用して授業の到達目標に照らした学修の達成度を多様な観点から評価することをシラバスに示し、厳格かつ適正な評価を通じた単位認定を行うとともに、学科ごとのGPAの分析により成績分布の把握を行いました。また、全学生を対象に実施した「学生生活に関する実態調査」集計結果を分析し、学科ごとの学修状況、学生生活について現状を把握し、大学運営に活かしました。これらの取り組みにより、多角的な教育の質の保証に努めました。
- I. FD委員会、人事部人事課や企画部大学企画推進課によるFD・SDの企画・運営により、計画的かつ体系的な研修を行い、自己啓発を例年通り推進しました。特に新任教職員については複数回研修を行い、本学園の建学の精神及び教育理念の浸透を図っています。また、本学では各学部・学科において活発にFD活動が展開されており、他学科のFD研修会を参考にFD活動のより一層の活性化を図ることを目的とし「学科FD通信」を作成しました。
- J. 短期大学保育科では、幼保連携の重要性を全学生に説明し、教育を行っています。その結果、2023年度卒業生は幼稚園教諭二種免許状99.1%、保育士資格98.3%の取得率で、学びを活かした進路決定を行い、就職率100%を達成しました。潜在保育士・幼稚園教諭・保育教諭の復職支援のための研修や現任の保育士等のキャリアアップについては、広島県と連携協力協定を締結し進めています。

② G7 広島サミット

5 月 19 日から 5 月 21 日の「G7 広島サミット」開催に伴い、広島県からの交通量抑制対策への協力要請により、5 月 18 日から 5 月 22 日の間を休講とし授業日の調整を行いました。また、広島サミット協力大学協議会からの「おもてなしボランティア」、「通訳ボランティア」として本学の学生も派遣されました。

③ 学生の出身高校訪問

一人暮らしの 1 年生が夏休み中に帰省して、出身高校（母校）を訪問し、高校の先生に成長した姿を見せて学生生活を報告することを教育的な機会と考え、大学として支援しました。

2023 年度は 41 名の学生が出身高校を訪問し、約 48 万円を補助しました。

④ 朝食無料提供及び夕食半額補助

「学生食堂まほろば」では朝食の無料提供を行っています。より多くの学生に毎日朝食を食べてから勉学に励んでほしい、朝食をとることで生活リズムを整えてほしいという思いで継続して支援しています。なお、夕食は、通常 400 円のところ、半額補助を行っています。

⑤ 奨学金／留学生交流支援制度（短期派遣）

本学の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、独立行政法人日本学生支援機構の海外留学支援制度（協定派遣）に以下のプログラムが採択され、実施しました。対象の海外留学プログラム参加学生で本奨学金の給付を希望する学生を選考し、計 115 名に独立行政法人日本学生支援機構から受けた奨学金 4,032 万円を給付しています。

【奨学金の対象プログラム】

- A. 英語英米文学科 アメリカ派遣 5 ヶ月留学（STAYS）2 年生
- B. 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）2 年
- C. 児童教育学科 海外教育語学研修（SEEC）
- D. 現代ビジネス学科 海外語学ビジネス研修（G.LABOS）
- E. 全学科 北米文化語学演習（NACLP）

⑥ 奨学金/安田女子大学海外研修支援制度

対象の海外留学プログラムに参加する学生を経済的に支援するため、学生 61 名に対し、1,220 万円を支援しています。（⑤の日本学生支援機構の奨学金との重複受給は不可）

【支援金の対象プログラム】

- A. 英語英米文学科 アメリカ派遣 5 ヶ月留学（STAYS）2 年生
- B. 国際観光ビジネス学科 国際観光ハワイプログラム（HIBISCUS program）2 年

⑦ 教育ローン利息補給奨学金給付制度

本奨学金給付制度は、指定金融機関の教育ローンを利用して納入する学納金等に係る利息の一部を奨学金として学生又は学生の保護者に補給するものです。2023 年度は、本奨学金の給付を希望する学生を選考し、合計 61 名に約 215 万円を給付しました。

⑧ 新入生歓迎行事

A. 新入生のためのクッキングセミナー

4 月 18 日（火）、20 日（木）、21 日（金）の 3 日間、新入生の自立を支援する企画のひとつとして開催しました。初めての一人暮らしで自炊が不安な学生はもちろん、料理に関心がある学生や料理が苦手という学生まで 3 日間で約 60 名の新入生が参加しました。

B. 一人暮らし支援イベント

4 月 15 日（土）、5 月 25 日（木）、6 月 22 日（木）の 3 回にわたって一人暮らしの新入生に、同郷の同級生、上級生、教職員との出会いの場を提供し、つながりをつくることで一人暮らしの不安を和らげ、順調な大学生活をスタートしてもらうことを目的として開催しました。延べ 120 名の新入生・上級生及び教職員が参加し、出身が同じ県・地域ごとにテーブルを囲み、ゲームや歓談・食事を楽しみました。

C. オリエンテーションセミナー

オリエンテーションセミナー（通称：オリゼミ）は、1976 年から 47 年続いている本学の伝統行事です。2023 年度も下表のとおり、4 月から 5 月にかけて新入生を対象に、広島県江田島市または島根県大田市の研修施設で 2 泊 3 日のグループ研修を実施しました。

日程	学科	研修先
2023年 4月28日～ 4月30日	現代心理学科 薬学科	国立江田島 青少年交流の家
2023年 5月 2日～ 5月 4日	日本文学科 現代ビジネス学科	
2023年 5月 4日～ 5月 6日	国際観光ビジネス学科 生活デザイン学科	
2023年 5月 6日～ 5月 8日	児童教育学科 ビジネス心理学科	
2023年 4月22日～ 4月24日	保育科	国立三瓶 青少年交流の家
2023年 4月30日～ 5月 2日	書道学科 英語英米文学科	
2023年 5月 2日～ 5月 4日	公共経営学科 造形デザイン学科	
2023年 5月 6日～ 5月 8日	管理栄養学科	
2023年 5月 8日～ 5月10日	看護学科	

⑨ 学習支援

A. 課外講座

開講及び受講状況は、次のとおりです。

提供講座：44 講座 開講講座：31 講座 延べ受講者数：663 名

2022 年度から Microsoft Office Specialist (MOS) 講座は、検定料の一部を安田女子大学後援会が補助しています。

B. ボランティア活動

51 件のボランティア活動の募集を行い、延べ 30 名の学生が参加しました。

C. 各種検定試験

学内で申込みを受け付けている検定試験は、「Test of English for International Communication (以下、TOEIC®という。)」 「日本漢字能力検定」 「文部科学省後援秘書技能検定 (以下、秘書検定という。)」 「日本商工会議所及び各地商工会議所主催簿記検定試験 (以下、日商簿記検定という。)」 です。秘書検定と日商簿記検定以外の検定は、学内で試験を実施しています。また、これらの検定試験は検定料の一部を安田女子大学後援会から補助を受けています。2023 年度における各検定試験の申込者数は、下表のとおりでした。

(単位：名)

検定試験	級	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	合計
TOEIC®	—	353	106	253	232	944
日本漢字能力検定	2 級	13	13	10		36
	準 2 級	1	4	3		8
秘書検定	準 1 級	1	8	0		9
	2 級	51	53	23		127
	3 級	4	1	6		11
日商簿記検定	2 級	4	0	3		7
	3 級	26	39	40		105

D. 公務員勉強会

公務員勉強会には、1 年生から 6 年生まで 218 名が参加し、セミナールーム (A 棟 402 室) での自主勉強会及び個別指導を行いました。更に資格スクールにより学内で行われる 2023 年度受験者向けの直前講座 (33 名受講) と 2024 年度受験者向けの通年講座 (106 名受講) の 2 講座を開講しました。2023 年度卒業生の公務員就職決定先は、行政職 17 名、資格職 (保健師・栄養士等) 8 名、公安職 (警察) 1 名でした。

E. 海外研修プログラムの実施

外国の言語や会話の学習に加えて文化や習慣について理解を深めるために「海外研修プログラム」を実施し、単位認定をしています。2023 年度は以下のプログラムを実施しています。

- a. アメリカ/カナダ派遣 5 ヶ月留学 (STAYS) 16 単位
 対 象： 大学文学部英語英米文学科 3 年生 (参加者 34 名)
 期 間： 2023 年 9 月 21 日～2024 年 1 月 26 日 (128 日間)
 派遣先： カリフォルニア大学デイヴィス校 (アメリカ)
- b. アメリカ/カナダ派遣 5 ヶ月留学 (STAYS) 16 単位
 対 象： 大学文学部英語英米文学科 2 年生 (参加者 36 名)
 期 間： 2023 年 9 月 1 日～2024 年 1 月 6 日 (128 日間)
 派遣先： ピッツバーグ大学 (アメリカ)
- c. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム (HIBISCUS program) 16 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 2 年生 (参加者 43 名)
 期 間： 2023 年 8 月 17 日～2023 年 12 月 22 日 (128 日間) 前半グループ
 派遣先： ハワイ大学マノア校 (アメリカ)
- d. 国際観光ビジネス学科国際観光ハワイプログラム (HIBISCUS program) 16 単位
 対 象： 大学現代ビジネス学部国際観光ビジネス学科 2 年生 (参加者 34 名)
 期 間： 2024 年 3 月 3 日～2024 年 7 月 8 日 (128 日間) 後半グループ
 派遣先： ハワイ大学マノア校 (アメリカ)
- e. 児童教育学科海外教育語学研修 (SEEC) 2 単位
 対 象： 大学教育学部児童教育学科 1～3 年生 (参加者 12 名)
 期 間： 2024 年 3 月 2 日～2024 年 4 月 7 日 (37 日間)
 派遣先： ヴィクトリア大学 (カナダ)
- f. 現代ビジネス学科海外語学ビジネス研修 b (G.LABOS b) 2 単位
 対 象： 大学全学部 (参加者 29 名)
 期 間： 2023 年 8 月 7 日～2023 年 9 月 9 日 (34 日間)
 派遣先： ワシントン大学 (アメリカ)
- g. 北米文化語学演習 (NACLP) 2 単位
 対 象： 大学 1～3 年生 (薬学部は 5 年生まで)、短大 1 年生 (参加者 14 名)
 期 間： 2024 年 3 月 2 日～2024 年 4 月 7 日 (37 日間)
 派遣先： ヴィクトリア大学 (カナダ)

⑩ 就職活動支援

企業の採用活動オンライン化は継続しており、オンライン面接用の部屋と照明機器などを用意し、学生が安心して面接を受けられる環境を整備しています。個別指導で学生一人ひとりの自立を支援し、積極的できめ細かいサポートを行った結果、大学の就職率は、99.7% (2022 年度比 +0.9 ポイント) でした。短期大学の就職率は、12 年連続 100%でした。

また、Uターン就職及び首都圏等の県外で就職活動を行う学生に対して、引き続き、旅費補助制度を設けて支援しています。さらに、山口県、島根県、愛媛県、岡山県に続き、鳥取県、香川県と新たに就職支援に関する協定を結び、Uターン就職の支援を強化しました。

⑪ 入学式

2023年4月3日、本学体育館にて開催しました。2023年度は、3年ぶりにご家族のみなさまにもご列席いただき、式典の様子は学内・学外へライブ配信・アーカイブ配信を行いました。なお、入学式終了後には、学科・専攻別にガイダンスを実施しました。

⑫ 卒業式・修了式

2024年3月8日、本学体育館にて開催しました。ご家族のみなさまにもご列席いただき、式典の様子は学内・学外へライブ配信・アーカイブ配信を行いました。

⑬ 保護者懇談会

2023年10月14日、保護者の方々に来学いただき、教員との面談や施設見学を通し、本学の教育等に理解いただくことを目的に保護者懇談会を開催しました。各学科別の説明会の終了後は、希望者にはチューターによる就職・進路に関する個別面談を行いました。

⑭ ピアノコンクールの開催

日頃のピアノ演奏の練習成果を発表する機会とし、あわせて音楽追求への意欲と意識の高揚を図ることを目的に本学学生を対象に「第4回安田ピアノコンクール」を12月に開催しました。アドバンス部門94名、ビギナーズ部門257名、合計351名が出場し、各部門で最優秀賞1名、優秀賞1名、唐花特別賞1名、両部門併せて5名を審査員特別賞として表彰しました。

⑮ フォトコンテストの開催

キャンパス内の施設、風景、大学生活などを撮影した写真を募る「第13回安田フォトコンテスト」を6～9月に開催しました。オフキャンパス部門に21点、オンキャンパス部門に31点、合計52点の応募がありました。フォトコンテスト選考委員による審査を経て、最優秀賞1点、優秀賞2点、審査員賞4点の作品が入賞しました。

⑯ 施設改修及び整備

A. 9号館東棟空調機更新

設置後20年が経過し、機能が低下した空調設備を更新し、省エネルギー化も含めより快適な教育環境を提供することができました。

B. 9号館東棟のLED化

設置後20年が経過した照明設備を、照度確保による環境改善、安全確保、省エネルギー化を目的としてLED化しました。

C. 9号館西棟動物実験室空調機更新

学生に安全かつ効率的な実験施設を提供するため、老朽化した動物実験施設の空調設備を更新しました。理論的な知識を実践的な経験と結びつけることで、生命科学に対する理解を深めることができます。

D. 南側造成工事

2025 年度の理工学部開設に向け、安東校地南側の『山林』を新棟建設敷地及び駐車場予定地として『学校用地』に整備しました。

E. コピー機とオンデマンドプリンタの更新

学生と教職員が利用するコピー機とオンデマンドプリンタを更新しました。これまで種類の異なる機器と課金システムによって運用してきましたが、これを一種類の機器（複合機）と課金システム（印刷ポイント）に集約しました。これにより、利用者の利便性が向上し、機器の台数削減による省電力化と運用管理コストの削減につながりました。

F. 教育系ネットワーク更新

講義室や実験・実習室、研究室等の学内全域に及ぶ、教育系ネットワークの中心的役割を担う設備一式（コアシッチ等）を更新しました。インターネットやクラウドサービスの普及に加え、理工学部の新設を控えるなか、より大容量のデータ通信を安定して提供できるようになりました。

安田女子高等学校・安田女子中学校



① 教科連携による探究的な学習の取り組みと高大連携の推進

新しい学習指導要領では日常の授業においても探究的な取り組みが重視され、自ら課題を設定し、その解決に向けて協働的に取り組むことが求められています。本校でもその流れを意識しつつ、総合的な探究の時間と教科との連携を図りながら、探究的な学習に取り組んでおり、12 月には校内で全校生徒による探究発表会を行い、日頃の探究活動の成果を発表しています。

また、高大連携をより一層推進するため、高校 2 年生総合コースには LC 活動（3 単位）、3 年生総合コースには IBL（3～6 時間）、高大連携講座（2 単位）という学校設定科目を設定し、安田女子大学を中心に近隣大学との連携をより強化し、進路観育成の充実に努めています。

② 進路観育成と進路指導の取り組み

6 年間を通して生徒が適切な進路選択と主体的学習を行い、自らの進路実現を可能にしていけるよう取り組んでいます。補習は発達段階によりレベル分けし、より適切で主体的な学習ができ

るよう配慮しています。また中学校入学時から卒業まで一貫した進路指導を行い、進路実現ができるよう各学年で下表のような取り組みを進めています。

	「進路観の育成や進路指導」に関する主な取り組み
中学生	職業ガイダンス (さまざまな職業について話を聞き、生徒の職業観を拡げる取り組み)
高校 1 年生	学部・学科研究 進路講演会 大学オープンキャンパスへの参加(広大・東大・京大等) 大学の出張講座受講 模擬授業 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿
高校 2 年生	進路講演会 大学オープンキャンパスへの参加(広大・東大・京大等) 大学の出張講座受講 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿
高校 3 年生	進路講演会 早朝・放課後の補習授業 進路面談 教科面談 長期休暇中の補習・学習合宿

③ 国際交流

高等学校では夏期海外研修、短期留学などを通して、異文化体験をし、国際的な視野を広げると共に、日本の伝統文化への理解を深める取り組みを行っています。2023 年度も夏休み中にニュージーランド・ダニーデンの姉妹校オタゴ女子高校への語学研修、また 12 月に台湾蘭陽市の姉妹校、国立蘭陽女子高級中学との交流を実施しています。どちらもコロナが収束し 4 年ぶりに再開することができ、貴重な体験となりました。

A. オタゴ女子高校への語学研修・留学

a. 夏期海外研修

期 間 夏期約 3 週間 参加者 高校 1・2 年生 20 名

b. 3 ヶ月留学

期 間 2023 年 7 月～10 月 約 3 か月 3 名

c. ニュージーランド 3 ヶ月留学受入(ホームステイ) 3 名

期 間 2023 年 12 月～2024 年 2 月

B. 台湾蘭陽市の姉妹校国立蘭陽女子高級中学校との交流

a. 総合コースの交流(国立蘭陽女子高級中学校訪問)

期 間 2023 年 12 月 17 名 * 2 泊のホームステイ含む

b. 生徒研究発表会と交流(国立蘭陽女子高級中学校の生徒が来校)

期 間 2023 年 12 月 18 名 * 2 泊のホームステイ含む

④ オンライン英会話の実施

英語において、書く、読む、聞く、話すの 4 技能が重要視される中で、特に生徒のスピーキングとリスニングの能力を高めることを目的に、中学 3 年生から高校 2 年生までを対象に Weblio オンラ

イン英会話を実施しています。年5～10回を目処に授業（OC）内での実施をすることとし、英検合格者の増加に貢献しています。また英語を話すことへの心理的バリアを取り除く効果も期待しています。

⑤ アフタースクールの取り組み

放課後のアフタースクールでは、卒業生やさまざまな職業人を招いた座談会や、自分の好きな事柄を表現するような企画を行っています。英検対策では Web 教材すららを活用し、また 2022 年度から導入したオンライン型の自学自習教材 YasudaPlus を継続して校内で展開しています。YasudaPlus では、受講を希望する生徒は週に 1 度学習会に参加して、校内に常駐する担当者と一緒に進捗管理を行い、個々の学習レベルに応じた学習に取り組むことで、成果を上げています。

⑥ ルールメイカー育成プロジェクト

2019 年度から 2022 年度まで経済産業省「未来の教室」事業「ルールメイカー育成プロジェクト」のモデル校として、生徒が主体となった校則の見直しを進めてきました。

このプロジェクトは、対話的・民主的な合意形成のプロセスを経て、生徒たち自身が教員・保護者などと協働して校則やルールを見直し、より良いルールに変えていく取り組みです。2023 年度からは生徒会（生活委員会）の活動として位置づけ、生徒や保護者にアンケートを実施し、校則の見直しや学校生活環境の改善について、学校と対話をしながら取り組みを進めています。

⑦ 体育祭

6 月に、広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）を会場に中学生・高校生合同で開催し、多くの保護者の方々にも来場いただきました。

⑧ 教員研修の充実

新しい学習指導要領では、日常の授業においても探究的な取り組みが重視され、生徒が主体的に学習活動に取り組むように指導することが求められています。

そのため本校においても、生徒が主体的・探究的に授業に取り組むことができるよう、授業互見週間を設定して、ICT 機器の活用や協働的な授業の取り組みなどを中心に、公開・研究授業を推進しました。

⑨ れんらくアプリの導入

保護者への連絡に利用していたラインネットを廃止し、11 月より「れんらくアプリ」を導入しました。生徒の欠席遅刻等の連絡がアプリで管理できることから、事務室業務の軽減につながるとともに、生徒状況が担任、学年主任に迅速に伝わるようになり、家庭との連携がスムーズになりました。

⑩ 高等学校入試インターネット出願システムの導入

従来中学校入試においてインターネット出願システムを導入しましたが、今年度より高等学校入試においても導入しました。これにより、出願登録、選考料の納付、受験票ダウンロード、合格発表、入学手続きまでのシステム管理を実現しました。入学金の支払いについては、現金による手続きを廃止し、銀行振込・コンビニエンスストアでの入金を可能にしたことで、学校・保護者双方の負担軽減につながっています。

⑪ 牛田総合グラウンド・白島グラウンドの活用

新設された白島グラウンドは人工芝のグラウンドであり、体育の授業で有効活用されています。牛田総合グラウンドでは、日常の体育の授業はもとより、放課後の部活動においても有効に活用しており、各種大会での好成績につながっています。

⑫ 安田リョウ記念講堂の完成と食堂利用の充実

安田リョウ記念講堂の完成に伴い、入学式や卒業式などの式典、文化祭や合唱コンクールなどの行事が校内でスムーズに行えるようになりました。

また 2022 年 9 月より 1 階に食堂がオープンし、昼食時には 4 種類のランチの他に焼きたてパンやサイドメニューの販売も行い、連日多くの生徒が利用しています。

⑬ 施設・設備改修整備

A. 新校舎の活用

a. 日本文化体験を目的とした教室

茶道などの日本文化を体験できる 3 階和室は 52 畳の広さがあり、半分に仕切って利用することも可能です。授業だけでなく課外授業（茶道、箏曲）でも活用し、小学校など白島キャンパス全体で利用しています。

b. 換気設備

校舎に 24 時間換気設備が導入され、1 時間あたり平均 4.2 回の空気入れ替えを行っています。この設備により、感染症対策や二酸化炭素濃度の低下を実現しています。

c. その他設備の設置等

6 階ホールにオーダーメイドの半円ベンチ、変形 L 型ベンチを設置したほか、屋上には 18 脚のレイジアナベンチをバランスよく配置しています。ともに生徒たちの憩いの場となっています。開放的な学習スペースにベンチを置くことで、明るく心地良い空間となっています。

B. 生徒への iPad 配布等 I C T 機器の整備

校内の Wi-Fi 環境を整備し、中学生、高校生ともに生徒 1 人に 1 台の iPad を貸与することで、I C Tを活用した学力の向上、情報の共有化に努めています。

授業での活用	ロイロノートを活用した協働的な授業、課題の配信 Google Form を活用したアンケートの実施
情報の共有化	Google classroom を活用した学校、学年、クラス内での情報の提供
その他の活用	スタディサプリを活用したアダプティブラーニング（高校）

安田小学校



① 教師力を高める研修（学力と品格を高める安田の教育をめざして）

A. 授業力向上

教員の授業力向上をめざし、「自ら学ぶ力を育てる授業の創造」を研究テーマに授業研究を全教員で行いました。教科ごとにチームを作り、全員が研究授業を公開し、その後、研究協議会で意見交換を行いました。特に、研究授業を行ったことにより、子どもの思考力を高めることにつながったことは大きな成果でした。また、毎週金曜日の放課後に、教員間で授業について自由に話ができる場を持ち、日々の教材研究に力が入り、個々のレベルアップにつながりました。

B. しつけ教育指導力向上

しつけ教育の重点目標のふり返りを行いました。全体での意識統一を図ることができ、児童への指導および学級経営に活かすことができました。

C. 新しい校舎での教育活動

6 年生理科の授業では 1 階くすのき広場において、ミニ火山を使った噴火実験を行いました。また 4 年生は 11 月、回廊にコースを設置して視覚障害者歩行体験を行うなど、新校舎の空間を新しい学びの場として活用した教育を実践しています。また 6 年生の卒業前に、各階の吹き抜けに全児童が集まり、1 階の 6 年生に紙吹雪を撒き、祝いました。

② 一貫校としての取り組み

A. 幼稚園・小学校の連携

安田小学校独自の教科「くすのき」を活用し、2 年生は 6 月に、安田幼稚園安東園舎の年長園児と「おもちゃまつり」で交流しました。4 年生は 10 月に、安田幼稚園の年長園児とリモートで読書交流「おはなし広場」を実施しました。また 1 年生は 11 月に安田幼稚園の年中園児と「あそびのひろば」で交流しました。

B. 中学高等学校・小学校の連携

中学・高等学校の教員間で研究授業に相互参加し、情報交換をしました。

C. 大学・小学校の連携

12月に5年生全員で安東キャンパスの施設見学・授業体験を行い、2月には同じく5年生を対象に管理栄養学科の学生による食育教室を実施しました。

③ 保護者との連携

年6回、保護者会パパ倶楽部から毎回20名前後が来校し、朝のあいさつ運動（ハロープロジェクト）を実施しました。この他にも、1年生および2年生の茶道教室におけるお茶の準備や片付け、10月には2年生による安田ガイドマップ作りにおける校外探検での移動の手伝い、子どもまつりでのゲーム運営などで児童を楽しませていただきました。運動会では、テントの設営・撤収、当日の運営を手伝っていただきました。また2月には、子ども祭りを運営いただき、児童はゲームなどを楽しむことができました。

④ 図書館教育の取り組み

子どもの心を耕し、学力を支える図書館教育を実践しています。新校舎では、くすのきラボや「たたみコーナー」などの開放的な空間を活用して、教室とは違う雰囲気を読み聞かせを定期的で開催しました。「ブックトーク」「ストーリーテリング」「パネルシアター」「読み合い」「アニメーション」「読書会」などの読書指導や、「分類番号」「図鑑と百科事典の使い方」「調べ学習」などの利用指導を図書の時間で行いました。図書資料とICTを併用した調べ学習も行いました。また「リーディング・ビジット」「読書郵便」「ブックチャレンジ」「親子読書」「朝の10分間読書」「読書祭り」「英語の絵本の読み聞かせ」等をとおして、図書館教育の充実に取り組みました。

⑤ しつけ指導

『安田式しつけ教育』（書籍）に基づき、第2章「学校のしつけ」と第3章「授業のしつけ」についてカリキュラムを作成し、全学年で計画的にしつけ教育に取り組みました。第1章「家庭のしつけ」では保護者の方のご協力のもとで取り組みました。また新校舎や新しい制服を反映した『安田式しつけ教育』の第3版を作成しました。

⑥ 安全指導・安全対策

A. 登校・下校指導

1年生と2年生を対象に4月に交通安全教室を行いました。また土曜日や学校行事での下校時に教員が学校の周りに立ち、児童の安全と迷惑をかけない態度について指導を行いました。4月と12月の年2回、全学年一斉に下校方面別の話し合いの場を設け、「危険な箇所」や「子ども110番の家」の確認をするなど、登下校でのマナー向上と危険回避能力の向上を図りました。

B. 防災訓練

4月に防災知識と避難方法を学習し、訓練を5月と2月の年2回実施しました。

⑦ 多様な体験活動・宿泊学習・鑑賞会等

A. 体験活動

- a. 4 年（12 月）、5 年（1 月）スケート教室：広島ビッグウェーブ
- b. 6 年スノーボード教室（2 月）：めがひらスキー場…雪不足のため中止

B. 宿泊学習

- a. 3 年山の学習 1：もみのき森林公園 6 月 1 日から 1 泊 2 日
- b. 4 年山の学習 2：帝釈峡 6 月 21 日から 2 泊 3 日
- c. 5 年 Global English Camp：もみのき森林公園 6 月 22 日から 1 泊 2 日
- d. 5 年まほろば学習：京都での日本の伝統文化体験学習 10 月 16 日から 2 泊 3 日
- e. 6 年山の学習 3：島根県三瓶山一帯 6 月 21 日から 2 泊 3 日

C. 鑑賞会・特別授業

「一流のものを鑑賞させる」というテーマのもと、児童に本物の芸術を体験させ、豊かな情操を養い、芸術を愛する心を育むことを目的として内容を選定し実施しました。

a. 鑑賞会

全学年が 10 月に沖縄の伝統文化鑑賞会を行いました。

b. 特別授業

6 年生は 12 月に広島東法人会による「租税教室」の学習をしました。

⑧ グローバル人材育成プロジェクト

グローバル人材育成プロジェクトの一環として、以下の活動を行いました。

A. 姉妹校との交流学习

1 年生と 2 年生は 12 月にレディーマー・ルーザラン小学校の 2 年生からクリスマスカードを受け取り、そのお返しに安田小学校から年賀状を送り、姉妹校との交流を深めました。

3 年生と 4 年生は 5 月にレディーマー・ルーザラン小学校の 5 年生から日本語で書かれた手紙を受け取り、安田小学校からは英語で手紙を送りました。これは、安田とレディーマー・ルーザランの児童のペア活動としての取り組みで、4 年時には、手紙を送った相手とビデオ通話で交信し自己紹介をしました。

5 年生は、お互いが質問状を送り、その返答をビデオ通話で行いました。

B. その他の国際理解学習

1 年生はハロウィンパーティー、2 年生はイースター学習をととして英語圏の文化を体験しました。

3 年生は学園のネイティブ英語教師にもみじまんじゅうやお好み焼き、宮島や平和公園など広島について英語で伝え、ネイティブ教師からは出身国について教えてもらう授業を行いました。

4 年生はギニアの方からギニアの文化や習慣について学び、その方が演奏する民族音楽の太鼓や歌を聴き、手作りのマラカスを使って一緒に演奏しました。

5 年生は、宿泊学習の一環として Global English Camp を行い、文化や習慣の異なる国の人と日本人の間に誤解や摩擦が起こったことを想定し、それを解決する短劇の脚本作成、ビデ

オ撮影と発表会をしました。またワークショップとして非英語圏を含む国（中国、韓国、南アフリカ）の文化体験をしました。

6年生は平和学習の一環として平和のためにできることを考えた上で、社会科の授業で、国際問題を解決するための国連とN G Oの働きを学び、自分には何ができるか考えました。また、アメリカ人の広島平和文化センター元理事長を招き、外国人から見た広島の問題を平和的に解決する考え方について、聞く機会を設けました。

C. 英語プログラム

英語を学び、使う機会を作ることを目的に、夏休みに4年生が、冬休みに3年生が約50名参加し、English Day Campを実施しました。

英語の授業を1年生週3時間(年間102時間)、2年生週2.5時間(年間90時間)、3～6年生週2時間(年間70時間)実施しました。英語スピーチコンテストを開催して英語を話す場を作り、児童のモチベーションを上げることができました。また、英語専任教師4名を配置し、少人数授業やT T授業を行うなど指導形態を工夫しました。

オーストラリア・アデレード郊外での海外研修（4・5年希望者対象）は、3月25日から4月5日の12日間、27名が参加して5年ぶりに実施し、レディーマー・ルーザラン小学校との交流を深めました。

⑨ 保護者支援

A. 食堂での給食

食堂での給食を実施しています。弁当作りから解放されたこと、冬場でも温かい食事が提供されることに多くの保護者から喜びの声が寄せられています。

B. 携帯電話の持たせ方

携帯電話所持に関する届出制のルールについて保護者への理解を図りました。

C. 学校カウンセラーの配置

子育ての不安や悩みを相談する場として学校カウンセラーを配置しました。数名の保護者が継続的に利用されました。

D. アフタースクール

放課後の預かりとして「ホームクラス」では宿題や読書、校庭や室内での遊びを行いました。また、英語、そろばん、体操、サッカーなど知識や技能を培う「スタディコース」を18コースに増やし実施しました。特に今年度は、フットサル、ミニバスケットボール、キッズダンスといった運動系の講座を新たに開きました。ホームクラスとスタディコースを併用することで最長19時までの放課後預かりが可能となりました。年々利用が拡大し全家庭の8割が利用登録しています。

E. 「れんらくアプリ」の運用

小学校からの緊急連絡を始め、遅刻・欠席の連絡、各種アンケートの実施など、家庭と小学校との緊密な情報交換を目的として、「れんらくアプリ」を運用しています。

⑩ 児童募集

A. 学校公開 week

6月5日（月）～10日（土）、本校の教育に興味を持たれている方を対象として「学校公開 week」を実施し、2校時に授業参観をすべてのクラスで行いました。

B. 入試説明会

9月9日（土）に入試説明会を実施し、学校紹介と入試制度の説明を行いました。

C. 親子面接と園児テスト（入学試験）

11月2日（木）

D. オープンスクール week

子どもの様子や学校を知る機会とするために、2月13日（火）～17日（土）に授業公開を実施しました。

安田幼稚園



① 保育研究活動

A. 重点目標と学校評価

今年度の重点目標を4つの柱をととした「やさしい心たくましい力」の育成と定めました。各柱には自己評価の視点として、①心通うあいさつは「片付け」、②自然とのかかわりは「身近な生き物への親しみ」、③友達いっぱい「戸外での運動遊び」、④おはなし広場は「話を聞く力」に設定し、指導に努めました。

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Web アンケート、回収率 96%）で各項目とも4段階評価で3.2～3.8、自園評価でも3.5～3.9となりました。学校関係者評価委員会でいただいた意見と併せて課題を明確にし、次年度に繋げていきます。

B. 職員研修

6月から10月にかけて、研究保育を各担任が実施し、互いの保育を見合い指導技術の向上、幼児理解を深めました。また、若手教員の育成と保育の質の向上をめざして、ベテラン教員の保育を年間10回程度参観し、互いの指導力を高めました。学内とは別に夏季休暇などを利用し、学外研修やリモート研修にも数多く参加しました。

② 読書活動の充実

A. おはなし広場

園長による読み聞かせ「おはなし広場」を 19 年継続して行っています。年間開催回数は 76 回、題材とした絵本 76 冊、紙芝居 78 冊で、学年ごとに実施しました。プロジェクターと教材提示装置を使用することで大画面での読み聞かせが可能となり、園児が物語の世界に引き込まれる時間となっています。また、各学年とも、クラスでの日々の読み聞かせや月間絵本の活用にも力を入れています。

12 月と 1 月に、園長による保護者対象「おはなし広場」を実施しました。12 月に 79 名、1 月に 61 名の参加希望者があり、園長の読み聞かせを楽しんだり、読書教育について学んだりしました。

B. 絵本の貸し出し

本園の読書活動については保護者の方にも浸透し、家庭での絵本の読み聞かせにも協力的です。借りた絵本の題名や作者、子どもの感想などを毎回記録する「絵本カード」は、園・保護者とのコミュニケーションツールとしても活用しています。

③ 自然体験

安佐南区にある学園の農園等を活用し、四季折々の作物の苗植えや収穫の体験をしています。収穫したジャガイモや玉ねぎを使ったカレーパーティー、もち米での餅つき、さつまいもでの焼き芋パーティーを実施しました。これらの活動を通して食への関心を深め、自然の恵みや管理して下さる方々への感謝の気持ちを育んでいます。

また、今年度もフラワーフェスティバルに飾る花を育てる「ピースフラワープロジェクト花育」に参加し、3 月初旬からパンジーの花の苗を育てました。

④ 英語教育の充実

英語に親しめる幼稚園をめざして、英語教育に力を入れました。小学校から毎日ネイティブの英語教諭を招いて、絵本の読み聞かせや運動遊び、カード遊びなどをしました。4・5 歳児は週に 1 回、ECC の正課レッスンを受けることで英語力の向上を図りました。また、3 歳児も週に 1 回、ネイティブの英語教諭による「イングリッシュタイム」を実施し、絵本の読み聞かせや、歌やダンスをとおして英語に親しむ機会を設けています。日常の保育の中でも、朝の会や帰りの会では、英語に触れる機会を多く持ちました。年長児の大半が年齢や名前・天気などは、簡単な英語で受け答えができます。6 月・11 月・2 月には、ハローウィークを実施し、英語で朝や帰りの挨拶を行いました。

⑤ 一貫校としての取り組み

A. 小学生との交流

10 月 31 日、年長組が安田小学校の 4 年生におはなし広場へ招待してもらい参加しました。おはなし広場では、小学生と一緒に手遊びをしたり、パネルシアターを見せてもらったり、絵本の読み聞かせをしてもらったりして楽しい時間を過ごしました。また、11 月 16 日、年中組が安田小学校の 1 年生と交流会を持ちました。1 年生が用意してくれたトントン相撲やすごろくと一緒に遊んでもらい笑顔いっぱいの年中組でした。小学生との交流体験は、就学の期待につながり、相互に思いを寄せ合う意義ある体験になっています。

B. 高校生との交流

夏休みの預かり保育の手伝いに、幼児教育に関心のある安田女子中学高等学校の6年生（高校3年生）が来園しました。園で子どもたちとかわかって夢が膨らみ、将来の自分を想像することに繋がっていると感じ、園児にとっても高校生にとっても職員にとっても意義ある体験になっています。同じキャンパス内だからこそ密な交流ができます。

C. 小学校長による教育講話

7月10日、安田小学校校長を招いて教育講話を開催しました。安田小学校の教育内容と安田幼稚園からの内部進学、特別選抜（専願）について聞くことができ、進学を考えている保護者にとっては、安田小学校の教育を理解する良い機会となりました。

⑥ 防犯・安全（避難訓練）

非常時に備え全園児で訓練を重ねています。不審者想定を年2回、地震想定を年3回（内1回は津波想定）、火事想定を年3回実施しました。昨年度より、園児に危機管理意識を高めてもらうため園バスの訓練を実施しています。訓練では、置き去りにされたときの対処法として「窓を開ける方法を知る」「大きな声を出して助けを呼ぶ」「クラクションを鳴らす」3つのことを学びました。

⑦ 子育て支援の充実

A. 預かり保育

預かり保育の利用は、昨年度と比較し開園日が3日しか増えていないにもかかわらず16%程度増加しています。新型コロナウイルス感染症が5類になり、コロナ前の日常に戻りつつあることが要因であると思われます。特に長期休業中の預かり保育の利用児が18%増えました。課外教室の参加が多い水曜日は、預かり保育の利用が100名近くになる日も多くありますが、その他の曜日も80～90名の利用の日が増えています。また、共働きのご家庭が58%と昨年度の52%に比べて増えています。共働きのご家庭にとって、安心して預けることのできる場所として更なる充実を図ってまいります。

<時間帯別内訳>

※人数は延べ数 ※()は伸び率

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
早朝預かり	5,636 名 (+24%)	5,472 名 (△3%)	6,094 名 (+11%)
通常預かり	12,271 名 (+46%)	11,791 名 (△4%)	13,669 名 (+16%)
延長預かり (17-19 時)	6,543 名 (+44%)	6,101 名 (△7%)	6,946 名 (+14%)
開園日の 利用者総数	12,966 名 (+43%)	12,915 名 (△+0%)	14,772 名 (+14%)
長期休業日の 預かり	2,337 名 (+32%)	2,208 名 (△6%)	2,601 名 (+18%)

B. 課外教室

今年度も英語・音楽・体育・バレエ・硬筆・サッカーの6つの課外教室を行いました。

通常保育後、慣れた場所で好きな課外教室を選べ、共働きのご家庭の園児も参加できることから、複数の課外教室を利用する園児が増えています。年長しか利用できない硬筆教室は抽選になるほど大人気です。

C. 親子登園・園開放・園庭開放

今年度も親子登園、園開放、園庭開放を実施し、未就園児親子に遊びの場を提供し、地域の子育て支援センターとしての役割を担いました。年間の実施状況は下記の通りです。

行事名	対象	実施回数	参加状況 * () は前年度
親子登園	2歳児	58回	16グループのべ525組の親子 (84回で481組)
休園日の園開放	2歳児	2回	のべ93組の親子(2回で83組)
開園日の園開放	1歳児 ～	2回	53組の親子(2回で32組)
園庭開放	1歳児 ～	10回	310組の親子(9回、285組)
個別見学会	2歳児	11回	46組の親子(7回で35組)

⑧ ICT環境の整備

教師用にタブレットを10台、園児用にタブレットを10台、日々の保育の中で使用しました。年長組は、思考力を楽しく身に付けるための知育アプリ「シンクシンク」に取り組んだり、調べ学習に使用したりしました。また、教師用タブレットと電子黒板を接続して映像や音楽を流す回数が増え、英語教育の推進にも役立っています。

⑨ 給食

学園の食堂で作られた給食は小学校を経由して幼稚園まで運ばれます。喫食場所は幼稚園3階アフタースクールの教室です。温かくて美味しい給食は栄養価も高く、食べる楽しさを演出してくれています。毎日違うメニューが提供され、子どもたちにとって楽しい時間となっています。保護者試食会を6月と2月に実施しました。子どもたちに人気のメニューを食べていただくことで、給食の良さを実感していただく機会になっています。

7月の宿泊学習「お泊り保育」では、年長組が食堂を利用しました。普段と違う場所での喫食、特別メニューを喜んでいました。

安田幼稚園安東園舎



① 保育・研究活動

A. 重点目標と学校評価

a. 重点目標と重点項目の策定

子どもたちが園にある環境に主体的に取り組むために、教師のかかわり方や園にある環境のさらなる活用のあり方を積極的に考えていきたいという思いから、今年度の教育における重点目標を「意欲的に環境に関わり、頭と体を存分に使って遊ぶ子どもの育成～環境に主体的に関わるための保育の充実を考える～」に設定しました。

本園の3つの教育の柱「自分が好き」「友達が好き」「自然が好き」から、各学年でめざす子ども像や具体的に取り組む事項を1項目ずつ重点項目として定めています。今年度は以下のとおり設定し、指導に努めました。

「自分が好き」…「食事のマナー」について

「友達が好き」…「友達との関わり」について

「自然が好き」…「戸外で体を動かして遊ぶ」について

b. 取組結果に対する学校評価

取組結果に対する学校評価では、保護者評価（Web アンケート、回収率 99%）で各項目とも4段階評価で3.7～3.9、自園評価でも3.3～4.0となりました。学校関係者評価委員会でいただいた意見と併せて課題を明確にし、次年度につなげていきます。

B. 子ども理解と園内研修の充実

今年度も担任が、絵本や運動遊び、環境構成など研究テーマを決めて研究保育や日々の保育、子ども理解について話し合いを重ねてきました。年度末には、全教員の研修を冊子にまとめました。

また、併設大学の学生の卒論研究と並行して、学生による子どもの行動観察やアンケートに協力しました。いろいろな見地からの観察とアドバイスをとおして子ども理解を深め、教師による援助のあり方を考え、日々の実践につなげています。

② 図書教育の推進

A. 絵本の貸し出し

1 週間に 1 回の絵本貸し出しを継続しています。家庭での読み聞かせの時間を作り、親子で 1 冊の絵本の楽しさを共有することが、毎日の家庭生活の中に根付いてきていることを感じています。園の蔵書を充実させ、家庭との連携を図る「絵本ノート」を活用しながら、今後も読書活動を推進していきます。

B. 「お話しタイム」の継続

園長が各クラスを訪れて絵本の読み聞かせをする「お話しタイム」を継続し、子どもの情操を豊かにし、聞く態度とともに聞く力の形成につなげています。

③ 自然体験

本園は自然環境に恵まれており、年間をととして学園の農園での収穫体験ができます。管理してくださる方々の力を借りて田植えをし、もち米を育て、収穫して餅つきを行い、食すという一連の体験は貴重です。野菜を植え育てるという活動も取り入れ、自分たちで育てた野菜の生長やそれを食することの喜びを味わいました。また、探索道で自然物収集やロープのぼり・芝すべりを楽しみました。

2023 年度も、子どもたちが園で育てた花を広島フラワーフェスティバルの会場に飾る「ピースフラワープロジェクト」に参加しました。花を育てることから優しい気持ちや平和な世界への願いにつなげてほしいと思っています。

④ 一貫校としての取り組み

A. 大学生の卒論研究への協力

毎年、併設大学・短大の教育者を志す学生の卒論研究のための保護者アンケート、教員アンケート等への協力をしています。

B. 大学の施設を利用した体験

大学教員の指導のもと、年長組全員の陶芸体験を実施しています。粘土をこね、皿などを作り、柄をつけ、焼き上がった作品を手にするのは、貴重な体験となっています。

また、毎年、年長組のお泊り保育の際に大学図書館で絵本を借りています。大学 9 号館にある天文台では、年長組親子全員対象に「親子で星を見る会」を実施しました。

さらに、短大の学生による「安田こども劇場」の発表を鑑賞し、子どもたちの楽しい行事となっています。

年度末の 3 月には、管理栄養学科主催の年長組対象の「食育ピザパーティ」を実施し、保護者にも大好評でした。

C. 安田小学校校長による子育て講演会の開催

6 月に安田小学校校長による「心を育てる親子の会話」と題した「子育て講演会」を開催し、約 45 名の参加がありました。幼児期に大切にしなければいけないことについてお話しくださり、家庭での会話の重要性を改めて感じました。

⑤ 在園児子育て支援について

A. 預かり保育の充実 * () は前年度

保育時間前後の預かり保育として、早朝保育と延長保育を大学・短大の施設“Sophia”で継続しています。2023 年度の実施日は通常保育と長期休業中を合わせ 230 日（229 日）となり、延べ人数 10,061 名（8,050 名）と多くの利用がありました。

<時間帯別内訳>

※人数は年間延べ数 ※()は一日平均

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
早朝保育 (7:45-)	1,968 名 (8.8 名)	2,000 名 (10.7 名)	3,052 名 (16.2 名)
通常保育	6,611 名 (35.5 名)	6,524 名 (34.9 名)	8,403 名 (44.7 名)
延長保育 (17-19)	1,284 名 (5.7 名)	1,276 名 (6.8 名)	1,984 名 (10.6 名)
長期休業中	1,440 名 (37.9 名)	1,526 名 (36.3 名)	1,647 名 (42.2 名)

B. 課外教室の充実

保育終了後の課外教室が 6 教室（英語・硬筆・絵画・サッカー運動遊び・ダンス・体操）あり、選択肢も増え、子どもたちの楽しみと励みになり、自信につながっています。

⑥ 未就園児子育て支援について * () は前年度

2 歳児親子登園は今年度も、親子登園の実施日を 9 月まで実施し、入園を希望する方々の体験の機会となり、地域の子育て支援にも貢献しました。9 月に実施した新規親子登園では、1 回コースを 4 グループ行い、延べ 48 組（73 組）の参加がありました。親子登園参加によって本園を志願する方がみられます。

オープンスペースは、予約制のもとキッズルームを開放しました。0 歳から 2 歳前までの乳幼児親子の参加者があり、子育て相談も行いました。

行事名	対象	実施回数	参加状況 * () は前年度
休日園開放 「幼稚園であそぼう」	2 歳児	3 日間	のべ 84 組（94 組）
園開放	1 歳～就園前	6 回	181 組（298 組）
園庭開放	0 歳～就園前	6 回	のべ 160 組（221 組）
親子登園	2 歳	28 回	319 組（372 組）
オープンスペース	0 歳～2 歳前	10 回	のべ 88 組（ 84 組）

⑦ インスタグラムの起用

Instagram（Instagram）での園の情報発信を行いました。フォロワー数も少しずつ増え、多くの方へ情報を発信するツールが増えました。

⑧ 施設・設備

探索道において、倒木の危険がある木を伐採しました。今後も、整備を重ねながら安全に遊べるよう管理していきます。

⑨ 防災頭巾の購入（全園児）

昨今の災害を受け、本園でも全園児 1 個ずつ、防災頭巾を購入してもらい、地震や火事、不審者侵入、園バス置き去りなどの様々な災害を想定し、避難訓練を実施しました。

財務の概要

今年度の資金収支について、収入総額は、220億1,671万円、支出総額は221億5,111万9千円となり(収支とも繰越支払資金を除く)、前年比では、収入はその他の収入の減少等により23億5,548万4千円減少し、支出は施設関係支出の減少等により33億10万7千円減少した。

事業活動収支は、事業活動収入計が108億9,553万2千円、事業活動支出計が93億9,672万円となり、基本金組入前当年度収支差額が14億9,881万2千円の収入超過となり、基本金組入後の当年度収支差額は△22億8,785万7千円となった。

貸借対照表の資産の部合計は、前期末より13億3,997万7千円増加し611億3,253万円となった。また基本金は、第1号・第2号第4号の組入により35億7,006万1千円増加し、635億2,105万7千円となった。

財務上の重要な指標である事業活動収支差額比率の実績は13.8%であった。同系統(薬学部他複数学部)の大学法人の全国平均値(日本私立学校振興・共済事業団の発行する「今日の私学財政」より)は近年4～5%程度の水準であり、それと比較すると、財務的に安定した経営状況であると評価できる。引き続き、教育研究環境の充実・向上に十分留意しつつ、強固な財務基盤を維持出来るよう努めて行く。

今年度の主な整備事業は次のとおりである。

安東キャンパス校地南側造成工事(4億480万円)
 安東キャンパス2号館建設工事設計業務(1億9,580万円)
 安東キャンパス9号館東棟空調機更新工事(1億3,939万円)
 白島キャンパス再開発工事(外構整備など)(7億3,606万円)

今年度の寄付金収入18,484,937円の内訳は次のとおりである。

法人より 8 件 7,805,000 円
 個人より 204 件 10,679,937 円

資金収支計算書の推移

(単位:千円)

収入の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度 増減
学生生徒等納付金収入	8,088,653	8,009,300	8,253,155	8,683,232	8,563,386	△ 119,846
手数料収入	99,057	93,279	90,273	84,734	99,026	14,292
寄付金収入	20,604	16,747	18,249	71,773	18,485	△ 53,288
補助金収入	1,422,040	1,463,107	1,376,624	1,828,256	1,528,234	△ 300,022
国庫補助金収入	779,721	814,260	749,210	1,169,883	870,022	△ 299,861
地方公共団体補助金収入	642,319	648,847	624,714	655,873	657,812	1,939
学術研究振興資金収入	0	0	2,300	2,100	0	△ 2,100
若手・女性研究者奨励金収入	0	0	400	400	400	0
資産売却収入	12,945,115	14,190,441	13,140,644	10,609,765	10,628,703	18,938
付随事業・収益事業収入	88,551	52,369	115,812	92,966	86,750	△ 6,216
受取利息・配当金収入	489,918	530,782	548,136	615,239	266,714	△ 348,525
雑収入	241,454	212,532	265,357	262,997	292,229	29,232
借入金等収入	0	0	0	0	0	0
前受金収入	1,209,186	1,293,718	1,269,517	1,168,126	1,187,442	19,316
その他の収入	1,088,394	955,517	3,044,023	2,668,020	713,035	△ 1,954,985
資金収入調整勘定	△ 1,653,329	△ 1,460,140	△ 1,567,962	△ 1,712,914	△ 1,367,294	345,620
小 計	24,039,643	25,357,652	26,553,828	24,372,194	22,016,710	△ 2,355,484
前年度繰越支払資金	5,336,544	5,280,170	8,007,607	6,498,549	5,419,517	△ 1,079,032
収入の部合計	29,376,187	30,637,822	34,561,435	30,870,743	27,436,227	△ 3,434,516

支出の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度 増減
人件費支出	4,731,179	4,807,897	5,062,535	5,047,655	5,156,810	109,155
教育研究経費支出	1,726,531	2,040,462	1,851,400	2,855,940	2,291,634	△ 564,306
管理経費支出	422,308	384,700	355,735	484,465	429,182	△ 55,283
借入金等利息支出	22,115	21,625	20,250	18,249	16,250	△ 1,999
借入金等返済支出	150,000	150,000	400,070	399,990	399,990	0
施設関係支出	2,648,613	464,796	2,943,130	5,925,054	1,692,639	△ 4,232,415
設備関係支出	272,928	151,169	91,806	322,852	87,580	△ 235,272
資産運用支出	14,103,080	14,650,384	17,468,053	10,194,066	12,213,613	2,019,547
その他の支出	83,832	47,095	56,390	253,082	82,210	△ 170,872
資金支出調整勘定	△ 64,569	△ 87,913	△ 186,483	△ 50,127	△ 218,789	△ 168,662
小 計	24,096,017	22,630,215	28,062,886	25,451,226	22,151,119	△ 3,300,107
次年度繰越支払資金	5,280,170	8,007,607	6,498,549	5,419,517	5,285,108	△ 134,409
支出の部合計	29,376,187	30,637,822	34,561,435	30,870,743	27,436,227	△ 3,434,516

事業活動収支計算書の推移

(単位:千円)

科 目			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年度 増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	8,088,653	8,009,300	8,253,155	8,683,232	8,563,386	△ 119,846
		手数料	99,057	93,279	90,273	84,734	99,026	14,292
		寄付金	20,604	16,747	18,049	71,773	18,485	△ 53,288
		補助金	1,177,481	1,300,108	1,231,542	1,519,818	1,528,234	8,416
		国庫補助金	535,771	666,797	604,128	861,445	870,022	8,577
		地方公共団体補助金	641,710	633,311	624,714	655,873	657,812	1,939
		学術研究振興資金	0	0	2,300	2,100	0	△ 2,100
		若手・女性研究者奨励金	0	0	400	400	400	0
		付随事業収入	88,551	52,369	115,812	92,966	86,750	△ 6,216
		雑収入	288,495	255,520	279,270	269,566	306,410	36,844
		教育活動収入計	9,762,841	9,727,323	9,988,101	10,722,089	10,602,291	△ 119,798
	支 出 業 の 活 動	人件費	4,767,451	4,819,069	5,033,122	5,099,059	5,258,647	159,588
		教育研究経費	2,909,017	3,296,367	3,032,206	4,171,825	3,605,020	△ 566,805
		管理経費	471,318	427,886	395,256	529,792	469,556	△ 60,236
		徴収不能額等	66	14	0	350	350	0
		教育活動支出計	8,147,852	8,543,336	8,460,584	9,801,026	9,333,573	△ 467,453
教育活動収支差額		1,614,989	1,183,987	1,527,517	921,063	1,268,718	347,655	
教育活動外収支	収 入 業 の 活 動	受取利息・配当金	489,918	530,782	548,136	615,239	266,714	△ 348,525
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	489,918	530,782	548,136	615,239	266,714	△ 348,525
	支 出 業 の 活 動	借入金等利息	22,115	21,625	20,250	18,250	16,250	△ 2,000
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	22,115	21,625	20,250	18,250	16,250	△ 2,000
	教育活動外収支差額		467,803	509,157	527,886	596,989	250,464	△ 346,525
経常収支差額		2,082,792	1,693,144	2,055,403	1,518,052	1,519,182	1,130	
特別収支	収 入 業 の 活 動	資産売却差額	13,146	99,677	35,032	62,010	24,400	△ 37,610
		その他の特別収入	250,120	167,583	148,117	321,636	2,128	△ 319,508
		特別収入計	263,266	267,260	183,149	383,646	26,528	△ 357,118
	支 出 業 の 活 動	資産処分差額	1,170,968	135,082	56,354	221,350	46,898	△ 174,452
		その他の特別支出	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	1,170,968	135,082	56,354	221,350	46,898	△ 174,452
	特別収支差額		△ 907,702	132,178	126,794	162,296	△ 20,370	△ 182,666
基本金組入前当年度収支差額		1,175,090	1,825,323	2,182,198	1,680,348	1,498,812	△ 181,536	
基本金組入額合計		△ 3,958,404	△ 182,973	△ 411,946	△ 7,628,307	△ 3,786,669	3,841,638	
当年度収支差額		△ 2,783,314	1,642,349	1,770,252	△ 5,947,959	△ 2,287,857	3,660,102	
前年度繰越収支差額		△ 3,702,426	△ 6,485,740	△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,827	△ 3,681,306	
基本金取崩額		0	619,513	129,104	2,266,653	216,608	△ 2,050,045	
翌年度繰越収支差額		△ 6,485,740	△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,827	△ 8,077,076	△ 2,071,249	

(参考)

事業活動収入計	10,516,025	10,525,365	10,719,386	11,720,974	10,895,533	△ 825,441
事業活動支出計	9,340,935	8,700,042	8,537,188	10,040,626	9,396,721	△ 643,905

貸借対照表の推移

(単位:千円)

資産の部						前年度 増減
科 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
固定資産	49,390,517	48,567,763	48,028,505	52,740,138	55,601,527	2,861,389
有形固定資産	35,475,453	34,734,906	36,517,553	41,195,746	41,471,001	275,255
土地	8,978,732	8,986,872	9,158,839	9,682,917	10,083,423	400,506
建物	21,625,656	20,756,404	20,021,322	26,463,386	25,714,781	△ 748,605
その他の有形固定資産	4,871,065	4,991,630	7,337,392	5,049,443	5,672,797	623,354
特定資産	13,892,857	13,795,845	11,475,971	11,506,719	13,995,029	2,488,310
その他の固定資産	22,207	37,013	34,980	37,673	135,497	97,824
流動資産	5,714,801	8,289,985	10,721,881	7,052,415	5,531,003	△ 1,521,412
現金預金	5,280,170	8,007,608	6,498,550	5,419,517	5,285,108	△ 134,409
その他の流動資産	434,631	282,377	4,223,331	1,632,898	245,895	△ 1,387,003
資産の部合計	55,105,318	56,857,748	58,750,387	59,792,553	61,132,530	1,339,977
負債の部						
固定負債	5,305,528	4,873,730	4,430,414	4,075,259	3,762,925	△ 312,334
長期借入金	4,250,000	3,849,930	3,449,940	3,049,950	2,649,960	△ 399,990
退職給与引当金	1,055,528	1,023,800	980,474	1,025,309	1,112,965	87,656
流動負債	1,542,491	1,901,396	2,055,153	1,772,126	1,925,624	153,498
短期借入金	150,000	400,070	399,990	399,990	399,990	0
前受金	1,209,186	1,293,718	1,269,517	1,168,126	1,187,442	19,316
その他の流動負債	183,305	207,608	385,646	204,010	338,192	134,182
負債の部合計	6,848,019	6,775,126	6,485,567	5,847,385	5,688,549	△ 158,836
純資産の部						
基本金の部						
第1号基本金	49,395,039	49,268,460	52,143,090	57,358,996	58,838,057	1,479,061
第2号基本金	4,800,000	4,478,039	1,854,251	2,000,000	4,000,000	2,000,000
第4号基本金	548,000	560,000	592,000	592,000	683,000	91,000
基本金の部合計	54,743,039	54,306,499	54,589,341	59,950,996	63,521,057	3,570,061
繰越収支差額の部						
翌年度繰越収支差額	△ 6,485,740	△ 4,223,877	△ 2,324,521	△ 6,005,828	△ 8,077,076	△ 2,071,248
純資産の部合計	48,257,299	50,082,622	52,264,820	53,945,168	55,443,981	1,498,813
負債及び純資産の部合計	55,105,318	56,857,748	58,750,387	59,792,553	61,132,530	1,339,977

貸借対照表関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	87.6%	88.1%	89.0%	90.2%	90.7%
2	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.1%	97.4%	98.1%	98.9%	99.4%
3	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	92.2%	88.4%	84.7%	90.9%	93.9%
4	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	10.4%	14.6%	18.2%	11.8%	9.0%
5	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	370.5%	436.0%	521.7%	398.0%	287.2%
6	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	436.7%	619.0%	511.9%	463.9%	445.1%
7	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	14.2%	13.5%	12.4%	10.8%	10.3%

事業活動収支計算書関係比率の推移

財務比率		算式(×100%)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	11.2%	17.3%	20.4%	14.3%	13.8%
2	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	78.9%	78.1%	78.3%	76.6%	78.8%
3	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	13.5%	13.9%	11.5%	13.0%	14.0%
4	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	46.5%	47.0%	47.8%	45.0%	48.4%
5	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	28.4%	32.1%	28.8%	36.8%	33.2%
6	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	37.6%	1.7%	3.8%	65.1%	34.8%
7	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	58.9%	60.2%	61.0%	58.7%	61.4%

在学生数・教職員数の推移

区 分		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
在学生数 (単位:名)						
大学院		33	26	23	29	35
大学		5,037	5,062	5,139	5,325	5,292
短期大学		262	294	299	272	240
高等学校		763	729	714	746	751
中学校		572	554	510	503	510
小学校		490	495	494	494	514
幼稚園		210	208	210	210	210
幼稚園安東園舎		206	210	207	208	206
計		7,573	7,578	7,596	7,787	7,758
教職員数 (単位:名)						
大学		616	596	602	593	595
短期大学		38	29	32	29	28
高等学校		74	79	86	91	82
中学校		58	57	57	61	58
小学校		43	46	50	46	47
幼稚園		29	26	31	30	29
幼稚園安東園舎		26	30	27	26	26
その他		4	4	3	3	3
計		888	867	888	879	868

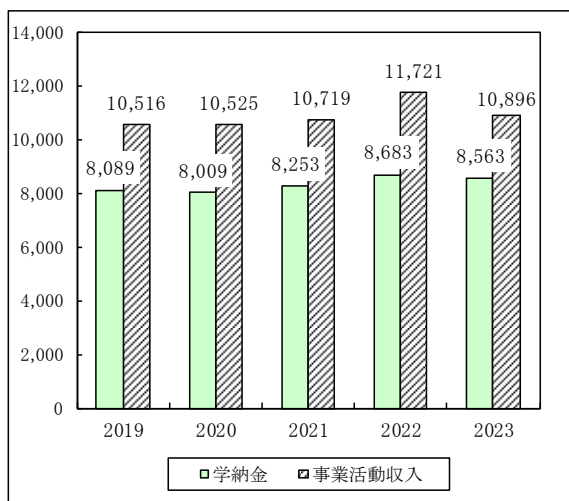
財務の概要

(5年間の財務 経年比較表)

(単位：百万円)

項 目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
①学生生徒等納付金	8,089	8,009	8,253	8,683	8,563
②事業活動収入	10,516	10,525	10,719	11,721	10,896
③経常収入	10,253	10,258	10,536	11,337	10,869
④基本金組入額	△ 3,958	△ 183	△ 412	△ 7,628	△ 3,787
⑤事業活動支出	9,341	8,700	8,537	10,041	9,397
⑥教育研究経費	2,909	3,296	3,032	4,172	3,605
⑦有形固定資産	35,475	34,735	36,518	41,196	41,471
⑧総 資 産	55,105	56,858	58,750	59,793	61,133

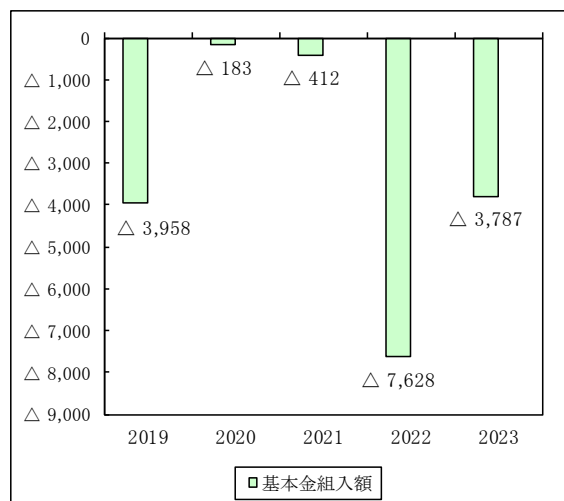
学生生徒等納付金及び事業活動収入の推移



項 目	2019	2020	2021	2022	2023
学生生徒等納付金比率	78.9	78.1	78.3	76.6	78.8

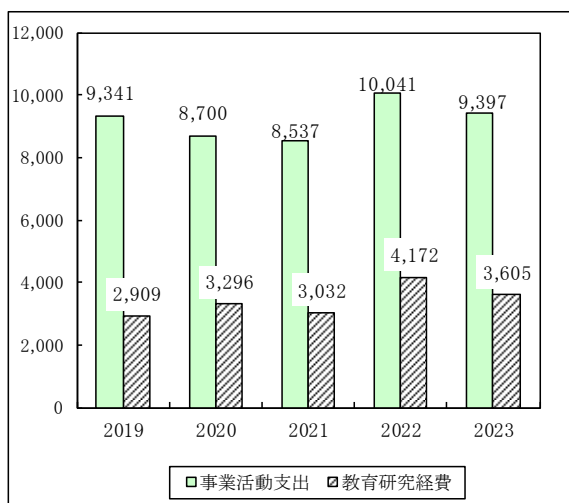
(学生生徒等納付金÷経常収入)

基本金組入額の推移



項 目	2019	2020	2021	2022	2023
基本金組入率	37.6	1.7	3.8	65.1	34.8

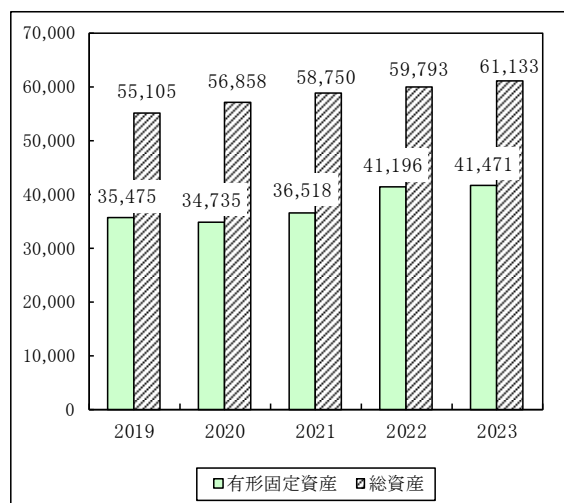
事業活動支出及び教育研究経費の推移



項 目	2019	2020	2021	2022	2023
事業活動支出比率	88.8	82.7	79.6	85.7	86.2
教育研究経費比率	28.4	32.1	28.8	36.8	33.2

(教育研究経費÷経常収入)

総資産及び有形固定資産の推移



項 目	2019	2020	2021	2022	2023
有形固定資産構成比率	64.4	61.1	62.2	68.9	67.8

学校法人安田学園

〒731-0153

広島県広島市安佐南区安東 6 丁目 13-1

Tel:082-878-6321